ぼくは、この話を読んで、セミが、かぶとむしを思いうかべた。
なぜなら、セミもかぶとむしも子どもを産むためだけに土の中から出て、羽をつけて いるからだ。
ぼくは、この前、カブトむしを夜つかまえたりした。
そうしたら、どうろわきに何十びきか、羽化していた。そして歩どうにも、動いているせみのよう虫が歩いていた。その中で、羽化していたセミの羽が、まるで、ガラス糸のようにきれいだった。~~なので、わずかの羽化~~
~~セミが二十日間しか~~生きられないのがもったいない~~と思った~~。

なので、土から出てから、たった十日間しか

の せみが

ぼくは、他にも、セミやカブトムシのような虫を知っています。それは、カイコです。カイコは、成虫になると、口がありません。カイコは、たった1日で死んでしまいます。ぼくは、これももったいないなと思う。そしてもっと生きていてほしい。ぼくは、カイコになりたくない。

水も食べ物もたべないで、

ぼくがもし虫だったら十日間しか飛べないのがしかたがないと思っていると思う。ぼくは虫には、なりたくない。ぼくは、もっとじゅみょうが、長く生きていたいのに思った。せめて、1年は生きていてほしい。そして、カイコは、口がなくて、1ケ月は、生きていてほしい。ぼくは、虫も必死に生きていることがわかったら

虫たちに　　なので